

西高 高校生レポート

西高農場は、先端技術の研究・研修、憩い、自然とのふれあいとして開放しています。

手作り有機肥料

西高校では5年前から、秋田県立男鹿海洋高校と協力して、農業・食品・森林性廃棄物と海洋性廃棄物をもとに、有機肥料の試作品『めぐみV』の作製を行っています。この取り組みは、産業廃棄



◀有機肥料作製に使用する材料の数々

▼完成した自然有機肥料『めぐみV』



※早期ねぎ・稲の直播栽培の圃場も見に来て下さい。

次回は、様々な夏バテ防止レシピを掲載します。



▲男鹿海洋高校生徒とも協力して肥料を作製

物を使用して、持続可能な循環型環境社会の実現につなげることを目的に実施しており、産業廃棄物は、ねぎの地上部・米ぬか・銀杏の実・山椒の実・鮭やハタハタの頭と骨・海藻・貝殻・ヒトデ等の使用。作製には民間企業が協力し、両校の持ち寄った物質に分解促進物質「内城菌」を入れ、分解を促進させました。

作製した有機肥料はメロンの栽培に使用され、未使用のメロンとの糖度や成分などを比較し、有効



▶雨など避けるためシートを設置

畑作の高畝栽培

性の調査を行います。実証の効果として、①特殊自然肥料による、食味の向上。②学校が技術の拠点として、企業とも連携できる点。③美味しさの秘密を科学的に分析し、生徒の知識を高めることなどが期待されています。

農薬を極力使用せず、自然に近い形で農業を営むことを目的に、西高校では今年から畑作の高畝栽培を実施しています。特徴としては、30cm以上の高畝による排水重視の農法であり、肥料成分を液肥の形で必要最低限施用、ケイ酸カルシウムを施して酸性土壌を中和することなどがあります。

生徒たちは高畝処理したものに米ぬかを入れたり、害虫被害防止のために、

ののためにマリーゴールドを植え付けした後、トマト・ナス・キュウリ・長芋などを植え付けました。また、植え付けする前に断根を行い、作物の生命維持機能に危機感を持たせることで、丈夫な苗育成を目指しています。こうすることで、トマトなどは原産のアンデスの地形に似た状況が作り出され、より高糖度のトマト生産が期待できます。担当の先生は、「生徒が高品質かつ低コストの省力農業を体験して、将来の農業における明るい可能性を見出してもらい、野菜を育てる楽しさを感じて欲しい。」と話してくれました。



◀生徒たちが日々草取りに励む



▶マリーゴールドを植え付けて害虫対策

